
~あっぱれ、俺の異世界譚~

やってみよう会

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～あっぱれ、俺の異世界譚～

【Zコード】

Z25980

【作者名】

やつてみよつ会

【あらすじ】

展開早すぎ異世界コメディー︕︕︕す！

ある朝、久しぶりに幼馴染に出会い、すぐ異世界に・・・ってええええ︕︕︕

じょ、冗談はよしてHHTって感じです。
はい、勇者は相変わらず役立たずです。

TSものも交じってます。主人公最強です。
苦手な人は戻つて下さい・・・。

できれば、まあ、見てつて下さい！待つてます！

展開早あーーーな、プロローグ（前書き）

『まづこてこると思いますが三作目です。

逃げ道作つてすこません！

あと、見て下ねつてありがとハジケルこめかー。

展開早あ！――な、プロローグ

いつものように学校へ向かう。

一人で遅刻・・・なんと清々しい・・・。

なんかむなしいな・・・はあ・・・。

とんとん

誰かが肩を叩いた。

あれ？誰もいなかつたはず？？

「誰！？」

「誰つて、ひどいな～一文字くいちもんじだよ～」「フツ生憎一文字という人を俺は知らんよ」

・・・いや、マジで。

「ほんとくに久しぶりだね～」

「知らん、そして語尾にをつけるな・・・『氣色悪い』

「キシヨいゆーな～ってかマジで忘れてる？？」

「だから知らねーよ！」

「一文字結城くいちもんじゆつきだよ～、思い出しても～」

友達の名前は全部覚えているはずの俺がナナメ後ろでナーナー言つているふつ～のヴァカよりヴァカな奴を忘れるはずがない。

「お～も～い～だ～し～て～よ～千秋くちあき～君～」

「何故俺の名前を！？・・・。」

・
・
・
ん?
?

もしかして・・・

「ユウキチ・・・?」

「もう一つそれはやめてと言つてこるじゃないか~

「何故片言なんだよ～？」

・・・もしかするとこれが居たりぬんじつ事になるから彼女たの
かもしけない。

「なんだ!?」

「えつ？えつ！？なに！？」

「ドドド！」といつよいつな効果音が！？

「逃げ……れなーい！……なーう一緒にー！」

こうして感動の再開（？）をとげてはや12秒で異世界旅行に出たのである！－たつたすけて～～～！

2話に続く！！！

展開早あーーーな、プロローグ（後書き）

まず、 より より ですいません。

こんなのが続きますが、応援よろしくお願ひします。

またまた早あおぬーーな展開の|話(前書き)

続ხです！
では、どうや～

またまた早あああーーな展開の一話

「つば！」

田が覚めると隣にユウキチ（全自動面倒事収集機）がいた。

「おいでよ、起物！」

あと五分

イラツ！

「起居用具」

一 あと 16538 分

」
」
」
」
」
」
」
」

イライフツー！

! ! !

チュードーン

「...レーリー...」
「...アーヴィング...」

「何が起きたんだ？」

「ひるせ～～な・・・誰だ？」

1

隣に知らん奴が居た！！

しかもイケメンだ・・・・・イラツ

「俺は神崎千秋

俺は神崎千秋だ！」

「俺は芝田隆弘だ」

!

今度は背の低い（というか俺らが祭壇っぽい台に居るからそう見え

・・・『美少女だつた！！

「うそだ？」

陸雄とか言う奴が聞いた
俺？放心状態ですよ？

「ヴァルシーア城の召喚の間です、勇者さ・・・ま・・・?」

と云ふそれ

あ・・・あの、誰か勇者が調べてください!」

「ううしゃ？」「あるしーあ？何それ食いもん？」
「ごめんよく分からんし着いていけん

二話に続く！！！

またまた早あああー！な展開の一話（後書き）

ありがとうございます。・・・。

ここにきて主人公設定！（前書き）

こんな感じです！
馴文で下さいません・・・。

主人公にきて主人公設定！

主人公（など） 設定

神崎 千秋《かんざき ちあき》

年齢 17歳

性別 男

外見 中の上（そう思つてゐる・・・チクショウ！）

どこにでも居る高校生（？）。だが異世界に召喚されて帰れなくなる。

しかし、結城と力を合わせて生きしていく強い人物。爺さんから我流を習っている。じつちゃんオリジナルの技だ。
神様に力を貰うのは、もう少しとの話である

スキル

悪運EX

たとえ隕石が落ちてきても生き延びる

一文字 結城《いちもんじ ゆつき》

年齢 17歳

性別 男

外見 上の上

明るすぎな普通のヴァカよりヴァカな高校生。だが異世界に召喚されて帰れなくなる。

実は神様から力を貰っている。もとの世界ではお金持ちである。

能力

ヘブンキャンセラー

死んでなければ例え腕を失つても、もとどなりにする。魔法のように小さい光の球が傷口を被い、完璧に治す。某力エル先生の一いつ名だけをパクらせてもらいました・・・。

スキル

K Y (空氣読めない)

例え金がなくつてテンション低くとも晩御飯などの話をする

何でもかんでもどんなことでも面倒事なら何でも来る。

全自动面倒事収集

芝田 陸雄《しばた りくお》

年齢 17歳

性別 男

外見 上の上

どこにでも居る普通の高校生。だが異世界に召喚されて帰れなくなる。

と言うよりも本人が望んだ。

神様から力を貰った。そのため、自分が主人公だと思っている。若干中二病・・・いや、もう手遅れかもしれない。

魔力

一番多い王族の魔力よりも多い
数値化すると

1000000000ある

(王族は100000000である)

病名

中二病

頭に花畠ができてしまつてゐる・・・。

二話に続くーーー！

「」にきて主人公設定！（後書き）

誤字や間違いがあつたら言って下さい・・・。
お願いします。

あと、ここまで読んでくださつてありがとうございます！
まだまだ続きます！

11／3 少し変更しました。「めんなさい。

誰が勇者なんだ！？！？！？

あ～読んでくれていいる諸君、俺は魔法あり剣ありの異世界に来たら
しい。

で、今魔力測定器とやらが田の前にあるのだが・・・。

「・・・水晶玉？」

「はこせうです！では、これに触れてください。」

「よし、俺がやる

あつイケメン君からなんだ。

・・・そして全員やり終えた。え？途中経過？ひたすらイケメソが
つづかつた・・・。

俺はいたつてHEHEBOZZだったよ・・・。平民の魔力は
10・・・。

ユウキチは兵士より少し上・・・。兵士の魔力は100・・・。
んで、陸雄（イケメソ）は一億だつてさ・・・。

「理不気り過ぎるー！ー！ー！」

「えつ？」

あつ、イケメソが笑つてる・・・。イケメソシネHHHHHHHHH
HHHHHHH――――――！

「な、なんか黒いオーラが出てるよ～

おつといけね・・・ってお前もイケメソじゅん・・・。これだから
イケメソは・・・。

「それじゃあ、陸雄様が勇者でその付き人が、千秋様と結城様です
ね」

「これからまかせろ！俺が勇者だ！」

「付き人ではない、というか元の世界に返せ！」

「無理です。1年くらいしないと大きな魔力は回復しません。すい

ません

勝手に呼ばれて魔王倒せ～だなんて無理だな。こいつの都合も考え

卷之三

「ぼくも付き人じやないけどがんばるよ！」

なにをだよ！

こうして俺たちは一日目を終えるのだが……。

しかも、思いつきり『倉庫』って書いてあるよ！？

その夜、俺は本を借りて文字を覚えた。

メニア語にて言ひりし。

英語と似ていたから覚えたぜ。疲れたけど。

話し合えるならまあいいか。

4話に続くーーーーー

誰が勇者なんだ！？！？！？（後書き）

どうぞどうぞですいません・・・。

こんな感じで続くんでそれでも見る人には感謝、感謝です！

それぞれの思い・・・? (前書き)

今回はおもてなしの観點を・・・。

それぞれの思い・・・?

S I D E
陸雄

俺は異世界に行きたかった。なぜかつて？

モテモテなのにいいけど
そしたら神が現れた！

「異世界に連れてつてやる。あと、チート能力もつけてやるNE
「あ・・ああ、ありがとう・・・。」

「じゃ、次会う時は魔王にやられた後か、それとも倒した後か。楽しみにしているよ」「樂

何故かは知らんがラツキー！！

「あ、あと他の人も連れて行くけど、な～に勇者は君なんだし。
んばってね」

そしてここに来たんだ。他の二人は糞だつた！魔力弱wwははは！－！
今はハーレム状態で困ってるwwふははははは－！－！

魔法騎士団隊長アリス・ア川セスちゃん

パーティで美女ww

そしてお姫様のエリカ＝ヴァルシーア＝クラーネーちゃん！！

あはははははあひははあつはははwww!~

SIDE 結城

本当は千秋君と会えたなら一杯遊ぼうと思つてたのに・・・。ショボン

ぼくがお金持ちだつたせいで友達が出来なかつた時、ぼくん家に乗り込んだ人が居たんだ

それが千秋君。色々あつたけど千秋君に助けられてばっかりだつた。

ここに行く時に神様に出会つた。力を貰つたけどあんまり目立たないから地味なのを貰つた。

死んでない限りなんでも直せる+何でも殺せる毒の呪文を貰つた。
言霊を使うから（魔力は使わないから）魔力は少ないらしい。

そしてここに来たんだけど、千秋君は神様から力を貰つてないらしい。

ぼくたち、これからどうなるんだる。

あつ隣に居る子はサン=ヴェルテヌちゃんで、反対にアーチェ=ベネッセちゃんなんだよ。

サンちゃんは魔法騎士団の副隊長なんだつて。

アーチェちゃんは魔法隊の副隊長だつて。

すごいね。でも、千秋君の方が強いよ！

だつて、刀持つた人とか、銃持つた人と戦つたことがあるんだつて！

あつそろそろ寝るね。お休み。

SIDE OUT

5話に続く！！！

それぞれの思い・・・? (後書き)

グダグダですね。・・・すいませんっしたあああああああああーー！

(作者)

夢の中へのメッセージ………（筆者）

いつからか、物語にならなくなつます。
と嘆つよつ、一語曰かりださゞ・・・・。

夢の中へのベセジジイイイイーーーー！

夢の中。

そう、これは夢。

わけ分からん。なんで真っ白な世界に居るんだ?
辺り一面白白白白白白白白人白白あれ?

「誰!？」

人がいた方に勢いよく振り向く
思わずこけ・・・てない?あれ?

「わしか?わしは、神だ!」

・・・えへっと救急車は何番だつたつけ?えへっとたしく「頭は逝
つとりんわ!」・・・はあ。

「で、何故俺がここにいる?」

「それは・・だな・・・。まず、異世界に連れてつたのを謝らせて
くれ。すまない。」

「はあ?」

意味わかめ・・・じゃない、わからん。

「本当は一人にするはずだつたんだが、すまない。間違いをしてし
まつた。」

「んじや、元の世界に戻してれんのか?」

・・・まあ、答えは予想がつく

「無理、じゅ

「よっしゃー！帰れ・・・ねえのかよー。」「あれ？予想がついてたのでは？」

・・・心読んでる？

「ウタ」

一
読むなああああああ！！！」

ハセガワ

「それで、力を抜け出さないと戻るまで……」

「んじゃあ、戦場のヴァ○キヨリアの力と、鋼の力で、

「アカニ」

「うの川ギニリ万の力は女性

「えあ？」

なんか凄い事聞いたような・・・。(つまり、最初っから着いていくてない)

落とし穴が！！ぬいいい！！？？

あと、勇者は頼りない奴だよ。

・・・ええええ・・そんなの今カミングアウトされても・・・。

6話に続く！！！

夢の中へのメッセージイイイイーーー（後書き）

お気に入りに入ってくれた人に感謝しますと同時に、
こんな駄作を見せてすいませんと、謝罪します・・・。
まだ、続くんでよろしくします。

新たな武器ゲット！…の六話！（前書き）

最近、好きな音楽を聞いてしまつて・・・。
といつわけで、おススメの曲です

Blue or Lime

残照

歌手は片霧烈火さんです！

新たな武器ゲット……の六話一

「うは」

・・・朝だ。窓から漏れた光が部屋に浮いてる埃を見せる。

「ハハ」「朝」「せーー」「せーー」

・・・もうひと、もうわんだ。

「あつ昨日の本、あつがとい。」んじせーの本ね

文字を覚えて自分でがんばらなくてはならない。勇者せいやんしゃんしてるし（死ねばいいと思つた）

「ウキチは忙しいし・・・。はあ・・・。

そいつがえつて、食事に手を付ける。

「はい。では、失礼します。」

「おう」

バタン

「ん?」

刀? なんで? あつ紙がある。

『やつほ~神だよ~

』の刀はラグ イト鉱石で作られた奴だよ~、名前はないから付

けてね

それを抜刀して、体の中のナニ力をそれに送り込むんだよ～
そうしたら性転換してこの世界一の美少女に・・・げふんげふん
送り込んだあと刀を振り回すと、月天衝（イメージは黒崎護
の技の青色バージョン）みたいのが出るよ～
鍊金術のほうは、両手合わして地面に付ければ作れるよ～
あとは、がんばれ～』

・・・。この紙、捨てよ。

まあ、力を送り込まなきゃ刀はただの青い刀だからいい武器ゲット！

実際に抜くと凄く綺麗な刀身だった。それと、なんかを感じた。
これがヴァルニアの力か・・・。

鞘にしまい、両手を合わせる。

・・・。「バチチチ」おおう、刀が出来てた。でも、普通の刀身だ
った。

よし、訓練場へと行こう～

廊下を歩いてると、前から陸雄が來た。

う・・・羨ましくなんかないもんね！ハーレムなんか作つたら、相
手を選ぶとき困るじゃん！！

・・・ごめん、少し羨ましい。

「ん？おい、お前～まだ居たんだ！はは！」

・・・なんか、イラつくなつてね？

7話に続く――！

新たな武器ゲット……の六話（後書き）

読んで下せりてあつがとハジケルこまかーー

「、羨ましくないもんね……の七話（繪書セ）

少し変更をしました。
すいません。。。作者はすぐ壊れるんで。。。。

う、羨ましくないもんね！－の七話

「ああ、居たとも。」

「へえ～、まつ俺の足引っ張らないようにがんばれ～～～」

「お前もな、じや」

俺は訓練場に行く

う・・・・羨ま s (r y

訓練場に着いたが、人が居る。

しゃーないから、じつちゃんから教わった我流の練習でもするか。
しばりくするとお爺さんだけになり、こっちに来た。

「これはこれは勇者様の付き人様。こんなところで何を？」
「付き人ではないですよ～～～すこし訓練を」

やつべえ！～この爺さんめつと強いわ！～殺氣がハンパない！～

「～ほう、分かるんですね？」
「分かるから、しまつてくれ！」
「これは失礼」

ふい～。やばかつた～。

「勇者様が戦いを申し込んできましてな。」

「へえ～、で、その勇者は期待どうりだつた？」

「殺氣にも気付きませんでした。こう言つてはいけないのは分かりますが、期待を裏切られましたね。」

「ふう～ん。」

ま、向こうは平和だったからな

「あのう、少しお願いがありまして・・・。」

「敬語で話さないで下さい。」

「わかった。少しして欲しい事があつてのう」

「で？」

「試合をしてもらいたい」

ええ・・・でも俺も一人の戦士だし、腕試ししてたのじっちゃんだけだつたし、まあいいか。

「・・・いいですよ」

「では、じっちゃん」

こうして戦うことになった。

8話に続く――――

早速、結果!!!! の 8 話

「では、行きますよ」 爺

「やつてやるー」 千

俺は木刀でお爺さんは刃を潰した剣で戦う

まず我流・切上二連(技名)を繰り出す。切上を2回やつて上から下にナナメに切り裂く。その間0・87秒!

うおー! 全部受け止めた!! 流石!!

我流・突き五重(技名)!! 突きを5回やるだけその一つ一つで全体重を乗せる。その間0・62秒!!

おー! ぎりぎり防いだ感がある!!

お爺さんの攻撃!!

上から剣を振り下ろす!!

それをお流・防御陣其の壱(技名)ただ受け流し、必殺技を出す機会を作る!!

・・・すげえ、クレーターが出来てる(・・・)

そこから剣を振り回す!(超高速)それを後ろに飛び、かわす!
うおー! すかさずお爺さんが剣を俺が飛んだあの場所に突っ込んだ!!

・・・クレーターが出来てる(・・・)

だんだんしんどくなってきた・・・。

次で決めることになった。

まあ、お爺さんも疲れて来たんだろうしな・・・。
たつた20秒間だったけど、凄く楽しかった・・・。

「我流・必殺、五倍返し!!!」 千

「ぬううううんんん!!!」 千

爺

「一倍！一倍！相手の左こめかみに打つ！！！」

防がれた！

「二倍！二倍！相手の右こめかみに打つ！！！」

また、防がれた！

「三倍！三倍！相手の鳩尾に突く！！！」

「ぬおお……」爺

よし一次！！！！

「四倍、五倍……！」相手の左・右足に打つ……千

「ぬうう……。」爺

終わつた……。

数分後

「やはり、負けたか……。」

「でも、強いじゃないですか。」

「いや、老いぼれはこれ以上にはならず、あとは弱つていぐのみ

「……。」

「でも、」

お爺さんは立ち上がる。

その日は、俺のじつちやんのように諦めていない日だった。

「わしがこれ以上弱くもならん」

「そうじゃないと……」

俺も立ち上がり握手をした。

9話に続く！！！

早矢の結果――の8話（後書き）

応援してくれてこむ様、本当にありがとうございます！

「おれのこじる、悪こじるーの話（前書き）

前回の戦闘描写がへたくそですいません・・・。

今後、いろんな小説を読みあさつて勉強します！

こんな駄文を読んでくれてありがとうございます。はい、早く読みたいですね。

では、どうぞ！

「」の力のいじとり、悪いところの話

お爺さんは帰つた。
訓練場は俺だけになつた。

「よし」

例の、ヴァルキーリアの力を使ってみよう！
刀を抜く。そして、何かよく分からぬものを、刀に、送り込む！
青い、炎の様なものが体から、刀から出てくる。
すぐに煙が刀から出てきて、体を覆う。
うおー！煙が晴れたとたん、体に違和感を感じた。
え？・・・ええ！？

「な・・なんじゃこりやあ！…！」

声も高くなつてゐー！
胸が膨らんでるー？
なんてこつたい・・・。

俺はあるものがあるか確かめる・・・。

「・・・うそん・・・。」

なかつた・・・。

「まあ、この実験が終わつたら男に戻るし・・・。まつこつか。(・
▽・・・)」

何かこれ性的に駄目なんじゃ？

まあ、まずは名前を付けなきゃ。

・・・青・・あおか・・げ・・青影ーー青影にしようつー(じゅうち

やんの名前は景雄(かげお)

「青影、いくぞ！」

力を送り込みながら、一振り！！

《物語の本筋を構成する要素はなんなんなん……》

W
h
y?

・・・・・

！兵士が来てしまつ！

「ばいなら〜」

「三二一！」（・＼・・＼・）「戦略的撤退だ！」

訓練場がおじやんしました。

すいませんっしたああああああああああああああ

10話に続く！！！

ルの力のことじ、悪いことじーの話（後書き）

まだまだ続くぜーーの駄文小説！

怪盗チアキ参上!――の10話(前編)

相変わらず主人公以外は書けません。・・・。
どう～～～しよ～～～；；；；

怪盗チアキ参上！――の10話

S H D E ハリカ

はあ～、どうもハリカ＝ヴァルシーア＝クラーーです。
・・・誰に言つているんでしょうが。

親友のエリーとマリーに聞いたんだけど、勇者様はカッコいいらしい！

いーなー、私は色々あつて顔を見せれなかつたんだけど・・・。
よし！見に行こう！

『ぎゅおおおおおおおおおおおおんんんんん！――――――』

え？何？今の音！

「何事ですか！？」
「はつ今のは訓練場からでしょ！」
「詳細は！」
「今、調べております！」

えええええええ・・・。

これ、勇者様を見に行けないじゃないですか・・・。はあ
ええい！犯人を突き止めて文句いつたるうう～！

ん？あれ、誰だろう？

さては・・・勇者様の付き人だな！
ついていくか！「いましたな！？姫様！？」

逃げなきやあああ～～～！

ジイはいつも私を護りつとするから厄介なんだ～

「じゃなーーー! じゃなーーー!」

SIDE OUT

S I D E 千秋

久松義典著

ん? 何か噂されていのうた? 三、か・・・?

どうやら腰に挿したまま力を送り込んでも女性になるようだ。・・・

まあ使わないわな

（）アリタニハシノ第一第谷轉播に附に得

金な～～い・・・ビウヒョウヒー！

そして城をさまよつて数分後！

二十九

「そこそそと入って金を取る！」「何してんの、千秋君？」つちい

「何もしてないよ」

卷之三

11話に続く！！！

勇者召喚祭……勇者はウザい……の一一話（前書き）

あれ！？ いつの間にか10話越えてる…？
まあいいや。とにかく、
頑張りますー！！！

勇者召喚祭！！！ 勇者はウザい！！の11話

所変わつて町の中。

・・・もう何処もかし」「もアソンタシ一・・・

中川＝ロジハのあなたみた・・・

金を作つて損は無し!」れ、じつちんの名言!

・・・壁 盗み出しがなしそう（おー！）

今は暑いから結構売れた！

卷之三

・・・なんで日本の金(旧)なんだああああああああああああああ――――

この異世界がよなよな日本

『前の勇者が「お金はこれで

•
•
•
51

卷之三

問題はその後勇者はどうなつたかだ。

屬してゐたが、この世界で骨を始めたりして
つまつとも、いのちの世界へ入る。

俺達はもとの世界に戻れるのだろうか。

ノリハツリマニヤミタミシカ

周りを見渡すと、人々がだらけ。

あ、そこか！勇者召喚祭りだったんだね！」

・ ・ つて、俺も出るんじやんか！

早く戻らねば……

シユビー！

いきなりだが……。

「王の御前であ~~~~~る……！」

おおひ・・・。野郎どもに見つめられても・・・ウップシ吐きをひ・・・
・。

「そなた等が新しき勇者だな？」 王

「はいそうです！」 陸

はい！？なんでイケメン（氏ねええ）が答えてんの！？

「俺は違つ」 千

「なに？」 王

俺は面倒事がきら～ず。（嫌い）

「こいつは勇者じゃなくて付き人です」 陸

だからなんでイケメン（氏ねええ）が答えてんの！？！？
12話に続く！？！

勇者召喚祭！――勇者はウザい――の11話（後書き）

チアキ ん？ なんだこの紙。

ユキチ どうしたの？ 千秋君。

チアキ なんか見覚えのない紙が落ちててさ。

リクオ ほう？ 見してみる。

チアキ おう・・・つて！ 何でお前がいるんだよ！

リクオ いやあ、本編では出番が少ないんだ。

チアキ だから作者と交渉してここに出させてもらつているんだ。

チアキ いやいや、俺とお前本編では邪魔な存在どうしなんだぞ！

リクオ それでも出でせてよ！ 作者はほぼ一人称しか書けねえんだぜ！

チアキ それに結城だつてほとんど本編出てねえじゃねえか！

ユキチ そういえばそうだね

フタリ 『軽ツ！』

チアキ ・・・ま、まあお前の言いたいことはよく分かつたから、

チアキ そろそろ本題にはいろう！

リクオ おおつすまない・・・で？

チアキ ええつと？

チアキ 『今後からは、今溜め込んでいる小説の主人公をゲストに後書きもしくは前書きにこのコーナーを進めます。』

リクオ なん・・・だと・・・！

ユキチ そんなことしてるより早く続き書いたらどう？ 作者？

チアキ お、おい！？ 「」 が抜けてるよ！

ユキチ ・・・呆れて何も言えないや。

リクオ ゆ、ユキチさん！？ そ、そこまで怒らな・・・

ユキチ あ、いや、なんでもないです・・・。

ユキチ ちょっと殺つてくるよ

フタリ 『戻つてない！』

がちやん

作者
ん？誰？

ゴキチ ちよつと○ H A N A S I しょく

作者
はい？ な、なぜそんないい笑顔何でありませうか？

作者　えつと・・

作者　赤と・・・その魚　はせね咲加良

続く？？？

無視つていけないと呟つんだ・・・。な十一話（前編）

やつねまつた・・・
ビリゴト~~~~~・・・

無視つていけないと思つんだ・・・な十一話

「やうか。では諸君等の健闘を祈る」

何だかんだでおわづちつた。

え？途中経過？ほつといてくれよ・・・。

まず、訓練がてらにバラバラに町を救つて来いだつて。（一応、説明はするんだね）

めんぢいって言つたらガン無視されて、

「分かりました。この勇者めにお任せを」

とかほざく奴が居る。

次に、その後魔王退治に出よだつて。

勝手に決めんな！―つて言つたらまたガン無視されて、

「分かりました。この勇者めにお任せを」

とかほざくアカがいる。

最後に、質問は？だつて。

（魔法とやらで）帰れる方法はあるのか！？つて言つたら

「在るかもしね。正直分からぬのだ。」

つて言われてふざけんなつて言おうとしたら、

「私はこの世界に残るので氣にしないで下せ。」「つむ。わかつた。」

とかほざくソッタレとクソッタレがいる。
んで、

「他に質問があれば会議室に来なさい。」

つて言うクソッタレ・・・。

酷くない！？これ！イジメジャー！

つとまあそんでも冒涜に戻る

ぜつつけつつけつたいて文句言つてやるゴンチクシヨー！！

んでお開きになつた後

がちゃ

「うむ？・・・また君かね・・・。」

「いい加減にしろよ・・・爺さん・・・。」

「いい加減にしてほしいのは君じや

勇者らしからぬ態度をとつてばかりでまつたく使えなもんづな付き
人ではないか」

「付き人じやあない！それと、人の人生潰しておいて何が使えなさ

そうだ！！」

「何じやと？」

13話に続く！――

無視つていけないと思つんだ・・・。な十一話（後書き）

次回、シリアルス直行か！？

んなわけねえ！！！（なんかごめんなさい）

次回は飛ばしたって構わないですよ！（本当）

チアキ ジゃあ書くなよ・・・。

俺が中二病患者になつてんじやん・・・。ここにひじやあるまいし・・・。

リクオ ・・・なんで俺を見るんだ？？

ユキチ ・・・さくしゃ？

チアキ 漢字を忘れてらっしゃる！？

リクオ これは恐い・・・ガクガクブルブル

作者 『めんなさい！今日はゲストが来てるんで、これで簡便！ミライ どうも、『白の国』の未来です。

なぜ呼ばれたのか分からぬのですが？

チアキ なんと！？

リクオ 多分、作者が未来さんに言つてなかつたんだりつ・・・。あ、俺は陸雄と言います。よろしく！

ミライ あ、よろしく。

リクオ こいつが千秋でこいつが結城つて言います。

フタリ 『なぜお前が言つ（んですか）！』

ミライ ははは、よろしく。

パアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

チアキ ジ、後光が・・・！

リクオ ま、眩S・・・！

ユキチ かつこい・・・！

いりして、田をつぶされたので一時中断！！

チアキ　目が・・・目があああ・・・！

次回に続く？？

「おの盡せ無視してもここより…いやなぐれむことだ…」（前書き）

かつとなつてやつた…。
海より深く反省しております。
山より大きく後悔しています…。
・・・はい…。

「この話は無視してもいいよ…いやなくてむししてえ…」

俺は少なくとも満足してた。

学校は嫌だが、友達とバカやつて笑つて、怒つて、楽しんで。

普通の暮らしで満足してた。

ユウキチも多分いや、絶対に思つていたはずだ。そうした人生をこの男、この世界が潰したんだ。許せるはずないだろ！

何で俺は、ついでで呼ばれたんだよ…（あれ？）そもそも全部ユウキチが悪いんじゃあ？

つてえ、そうじやないだろ…！

「向こうの世界ではなあ、友達がいて、普通の暮らしがあって、家族がいて。

それだけで満足だつたんだよ…けれどお前等のせいで全て潰されただよ…！」

お前等の都合で人の人生めちゃくちゃにすんなよ…！」

「だが、わしたちはそらするしか魔王に太刀打ち出来ぬのじや…！政治も進まぬし、勇者の存在が必要じやつたんじや…！」

「そのためには人生潰されたのかよ！俺は…！」

「ここはすでに腐つていたのか…。

まるでイケメン（氏にさらせえええええええ…！…）みたいだな！

「勇者の存在にしがみ付くな…！」の世界のこの国はお前が背負つ国だろ…！

自分たちで乗り越えてこそ自分の自分たちの国だろ……。
んでもって一人じゃないんだよ……あんたは……」（なにこれ、何
の茶番？）

「？」

「他に、家族が居る！武官が居る！文官が居る！
そして、国民も居る。」（くさーーーーー）

「……」

「一人で背負う訳じゃがないんだよ。
この国に居る皆があんたの味方なんだろうが。」

「……。」

「あんたは出来る！けれど始めるつとめしてこないんだよ。
創めてから！」や出来るんだ」

「わしは出来るのか？」

「あんたにしか出来ない」

「やつか……先ほどの発言、申し訳なかつた……。」

「いつまつたらじかねはず……（おこ・理想かよー）よし、まひせーーーー。
14話に続く……！」

いの話は無視してもいいよー。じゃなくむしろいいえーー。（後書き）

すぐ」次回を出しますーー。

なんだか重い感じになりました。。。 エトワール（星の形）

前回のせいかおせんでした・・・。

・・・・・・・・・・ だま、 じゅる・・・・・・・・・・。 (・ー・ー・ー)

あんだけ言つとこひがなつた・。の十四話

まあ色々あつて、王にこれから勇者を召喚するなど言つておいた。

あと殴られた。（わお）

召喚するとしても緊急時で、何とか時間を稼ぎ強くなつてからではなければならぬ。

とも言つておいた。こ、これは本当に緊急時のみだからなーっと

しつかり釘も刺しておいた。あと殴られた・。・。（おいおこ）

そして、その代わりに少しだけ勇者業やつてやるとおこになつた・。・。あと殴られた。（おこ）

・・・あれ？

結局やる事になつてんじやん！

アディオス！俺の平穏！フォーニヴァー・・・。

チクシヨオオオオオオオ！-

SIDE OUT

SIDE 陸雄

あのチャキとかいう奴め・・・ふざけんなーー

カス過ぎるのは分かるがワーウー騒ぎやがつて！

俺の楽しむ世界で潰されて死ね！-

つとと、そーいや明日は別々に町を救いに行くんだつたな・。・。

かわいい子がいてー！その子を助けてー！んで、俺に恋するー！

そして、ハーレムが増えるつふふふふははwww

あ～明日が待ち遠しいな～www

今日『も』エリーちゃんとマリーちゃんと一緒に寝るー！

前の世界とは大違い！ー！はははははwww

今日は寝かねえー（りょ

SIDE OUT

SIDE 結城

つい眠っちゃって話を聞いていなかつたら、終わっちゃつたら……。

後でサンちゃんとアーチュちゃんに聞いたら呆れた顔で、

『聞いてなかつたのですか？私たちは明日、救助要請の出でる西町に行くのですよ。』

『そこだけが人を治し、魔物を倒すのです！』 サ

つて言われたよ……。

何か凄い話になつちゃつたね～！

だから千秋君に相談しようと千秋君が何処にいるか聞いてみると、

『あの者に在つてはいけません！！』 サ

『無礼な人に、お兄ちゃんは会わせないからー！』 ア

つてさー……。

千秋君、一体何をしたんだろ～？

つて明日に備えて早く寝なきゃ！お休み～……ZZZ

15話に続く！！！

あんだけ言つといひこいつなつた・・。の十四話（後書き）

チアキ 見苦しいもん見せてすいません・・・。

ミライ ああ・・・いいよ、うん、大丈夫。

「うちの医療用スキャナで治せるから

二キチ
ええ！！千秋君 病気だったの……？
チアキ ち、が～～う！－俺はどこかの誰かさんとは違うのだ！－

リクオ　・・・なぜ、俺を見る？？　・・・ああ、そうか。

俺の凄さにやつと気がついてくれくれたのか。

チアキ ちげーーよー！お前よか俺は大

ユキチ チアキくん手紙

「アキ、なんだ!? 何々?」

卷之三

ハサウエイ 著者を殺す

卷之三

ん？だれ？え？あ、ちょ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ファンタジーだなーとしみじみ思つ・・・の十五話

はいー毎度毎度おなじみの千秋です。

朝起きたらロープで押さえ込まれて拉致られてた・・・。

・・・あるええ？展開速度おかしくない？と思つた人、今すぐスクワット三十回やれ！

そして罪人の様に扱われてみるー！皆から哀れみの目でも見られろー！

すぐに泣きたくなるぞー！ー！

え？そんな扱いを受けてたのかつて？・・・そうなんだよ・・・。

泣いてはないけどな・・・。

つとか話してこりゅうひりこ田町についた・・・ん・・・だけ・ど・・・。

ああああああああああああああああああああああああんんんんー！

・・・はい？二ホンゴテハナシテクダサイ？

「嘘ー！ーやつと逃げれるぞーー！」

「撤退だー！ー化け物（竜）なんかとまともに戦ついたら死ぬぞーー！」

「市民の皆さんー！ー早くーの馬車にお乗りくださいーー！」

えあ？なにこれついていけない。

「付き人様ー！ー竜を倒してくださいーー！」

んなもん無理じやあああああああああーー！

「！」の月夜の町を救つてくださいーーー！」

んなもん無！理！

俺の我流剣術はほぼじっちゃんの教えてくれた技で、あんなに出来たのは久し振りだつたんだよ！

卷之三

「そもそも何でか過ぎるんだよ！竜が！――

約大人の人の身長×3倍（メートル）あるんだぜ！？

無理がで、三のふでぐる。三のふでぐる。
俺を拉致つた人に蹴り飛ばされた・

あ～～あ、こいつを興味津々に見てるよ・・・(・・>・・)

ぼ、ぼくはオイシクないんだなー、ん~これが。

・・・は！！鍊金術があつた
幸い、一二は血の海じやん。

剣山生やして穴だらけにしちゃぬ——

がおおむねは、いわゆる「おもてなし」の文化である。

パチン！（両手合わせて） ドン！（地面に手をついて） バチチチチ

チチ！（鍊金！）

ギヤ オオ オオ オオ オオ オオ オシシシシシ!!!!

やつた！……倒した！……「倒したんぢゃないぢゃ！……」言ふじゆつた！あはー！

フーグロー！ ゲベツー！ ハヤハヤハ・・・。（かっこ悪）

結城も頑張る！――十六話（前書き）

お久しぶりです！！

やつぱり言われると思っていた感想がきました！

やつぱりワードから移したものは意味わかれですよね・・・。

それでも書かせていただきます・・・？

・・・で、できる・かなあ？

結城も頑張る！――十六話

SIDE 結城

千秋君が逝っちゃつた～・・・じゃなくて、行つちゃつたよ～
今、一番危険な北町の救援に千秋君が～・・・。
あれ～？何で縄でグルグル巻きになつてゐるの～？千秋君～？

「あの～、そろそろ西町に出发ですよ～？」 サ

。なんですと～！早く用意しなきや～！つて出来ていましたね～・・・。

「分かりました～、それじゃ～出発～！」 結
「待つて～、お兄いちゃ～ん！」

「ん？」この声は？

「置いてかないから慌てないで、アーチヒちゃん」 結
「ん、ショット・・・ハア、ハア、ハア」 ア
「んもう。あ・れ・だ・け・遅刻しないよう」と言つておいたのに・
・・。」 サ

・・・この光景を見て、少し頬を緩める。平和だな～。
それに気づいたのか、サンちゃんがそっぽを向く。

「頬が赤いよ～？風邪なら休んだほうが～・・・」 結
「いえ！だだ、大丈夫でしゅ！」 サ

・・・大丈夫かな～？？

馬車で移動して十数分、ついに西町『日雇^{ひびる}』に着いた。北の月夜で戦闘して傷を負った人たちの避難所となつていて、みんな傷だらけ。

「傷の酷い人から来てください～！すぐに治療します～！」

「こいつを助けてやつてくれ！」

「よし、アボーン」

「わー治ったー?」(すげえ)

「は、ちやか走った！？」（ええ！？）「そん！？」（もはやチート……。）

「おまえも治療しちゃくるよー！－じゃあねー！」

17話に続く！・！・！

・　・　・　後に異界の名医師と、その名を轟かすのであった。

結城も頑張る…！十六話（後書き）

間違いがあればジャンジャン言つて下せー！

・・・え？この作品自体が間違い？？

・・・・すいませんでした・・・！

次回こそ後書きのお話しますね！！

勇者の説く——な十七話（前書き）

すこません。・・・。

テストで遅れてしましました。・・・。

あ、もう見ていいですか？

勇者の伝説！！な十七話

SIDE 陸雄

と、言つわけで東町に向かう。

リーチさんとマリーさんは今、黒車の中で熟睡中WW!! 寝顔がとても可愛いwww!!

ほり！いかんいかん！起じしおやうとひるだりた！静かにしなきや。

くそれで、勇者様の世界ってどんな世界なのでですか？>

今ひそひそ声でヒリカ姫をじりつや・・・「ホンー」とお詫中なんだ！

東町に早速着いた。え？ 町の名前？ ちつしかたねえ、教えてやるよ。
朝陽つてんだ。つて誰に言つてんだろ・・・？

助けるついでに魔法を覚えて魔王退治に備えてもらいたいらしい。

「魔法と言うのは、魔力を外へ出すときに言葉で変換するんですよ。例えば、『火よ、この指に灯れ火よ、この指に灯れ』」エリカ

すると、エリカちゃんの人差し指にライターくらいの火が浮いていた。

実際にやってみよう！！体の中のナーブを外に出す感じで、

「炎よ、前方に居るゴブリンを焼き灭べせーーー」 陸
ゴウウツ ! ! ! !

ピキヤアアアアアアアアアア ! ! ! !

はははははははーーーザマア www ! ! !

「凄いです・・・。」 ハリカ

「凄い魔力の量・・・。」 マ

「こんなにいるゴブリンを一度に・・・。」 ハ

ははははーーーみんな（町の人も含めて）が尊敬の眼差しで見てくる。
はははは www ! ! ! 困ったなー www ! ! !

この日、俺の為だけに町で祭りが開催した。

周りから勇者「ールが起こる。はは www ! ! ! 最高ーーーめっちゃいい気分 ! ! !

右にエリーちゃん、左にマリーちゃん、背中から抱きつぶ ハリカ姫

ww ! ! !

両手に花以上だぜ wwwww ! ! !

・・・その後実は、ゴブリンの焼死体に町の人の焼死体も発見されることになる。

その町の人の焼死体は全部ゴブリンから離れた場所にあったのだ。
そして勇者が国を出て、旅に出たあと問題視になる。

今は誰も知らない事実。果たして勇者、陸雄はのんきにしていられるのだろうか？

18話に続く！！！

「みんなさー・・・・。

作者 勇者君はあらかた潰しますからね～・・・。

儀にておん拂ひ立たないがれ。

•
•
!

リクオ　・・・俺は・・・悪役・・・なのかな?

「燃えた……燃えただけ……真っ白にな……。

みたいになるな！！

エキ弁えり？悪役じゃないの？？僕はケスで間抜けな悪役勇者

リクオ うぐうう

しかもめっちゃ笑顔！？！？！？

んごめん、千秋君？？？

チアキ ・・・ もしかして・・・ 怒つてらっしゃいますか??

チア井　…　…　…　…　…　…　…　…　…　…　…

んでもって、何に使うんだ？

コキチ 「ひ」から始まつて「わ」で終わつて途中に「なみ」つて
言葉が入る田舎のある女の子から貰つて来たんだ

それで、どう使うのかは…

こう使うんだよ

! ! ! ! !

作者 じ、次回は、村人たちの意見です。どうぞ、期待せずに見て
つて下さい！

ユキチ
死んじゃえ

作者は、話せヴァ分かる！

卷之三

一方、町人は・・・な十八話（前書き）

はい、あけましてつてか遅いですね、はい・・・。
遅くなつたのは「テ」から始まる拷問に等しいものせいです、は
い。

では、どうぞ！！

一方、町人は・・・な十八話

SIDE 町人A

い、今起こつたことを在りのまま話すぜ・・・？
勇者の付き人のやる氣無しの変な奴が戦いたくねえ」とかいつてい
たから蹴りおとして、無理やり戦わせたんだ・・・！！
そしたらなんと！お祈りしたかと思つたらその両手を地面につけた
んだ！！

そこまではよく分かる。問題はその次だ！

そしたら針山が生えてきて竜を針の筵にしたんだ・・・！！
竜と言うものは本来、最強の魔術師軍団二十人でやつとなぐらい強
いんだ！！
え！？信じられない？俺もだよ！？
俺だって意味わかんね～よ！？とにかく！
あいつはいい意味でやばい！！！

SIDE OUT

SIDE 町人B

俺は今！感動している！！

勇者の付き人の何か眠そうな奴が来たとき、正直「終わつたな・・・
この町」と思つた。
だがしかし！重症のもう助かりそうのない奴を一瞬で治しやがつた
んだ・・・！

そいつ泣いて喜んでたよ。

あれこそ勇者！って思えたな～！

それに、次の人に！つづつて走つて回るし・・・！

もつ言つこと無し！！今回も召喚はせいじゅだな！
・・・本物の勇者は何をしてるんだろう？？？

SIDE OUT

SIDE 町人C

・・・なんじやありやあ・・・。

その一言に限る・・・。

私たちのために敵を一掃してくださった・・・。
しかし、あれは何なんじや・・・？

一撃で全てを根絶やしにしよつた・・・全てを・・・。
敵も・・・味方も・・・。

燃える、田畠・・・。

そして・・・わしも・・・。

ああ・・・これが・・・死・・・。

勇者様の・・・ためなら・・・ば・・・。

・・・すまぬ、皆・・・わしの分、生きてくれ・・・。
・・・あの頃の・・・皆に・・・会え・・・る・・・。

SIDE OUT

19話に続く！！！

一方、町人は・・・な十八話（後書き）

作者 短くてすいません・・・。

。チアキ ありがとう、作者君の隠れ玶我じや今回出れなかつたせ・・・

リケオ
・・・人殺してたんだ・・・・・

井とわたしのかな

チアキ お先に「ユ一」が最初に付く……リクオーテ

リクオ なんでだよ！？本編では悪役でいいナビ、リリでは普通で

レガシイ

マジタ・・・。

作者 あれ?どうなつてんの!?ユキチが悪いんでしょ!?

フタリ
タ
あ
・
・
・
。

ニキチ ええ、こゝなぐてほくが悪いのがなつがなつ

一人とも逃げ……つてもうねえ……

「キチ じやあ、じぶね

作者
ははは、最近俺死んでばつかじやね？？？

! ! ! ! !

やっぱ！－嫌な思い出だらけの街よ－な十九話（前書き）

すいません！！更新遅れました！！

やっぱ……嫌な思い出だらけの街よーな十九話

やつほー！！

千秋だよ！キラッ　・・・オエッ・・・。

何か魔王が魔王の部下らしきものの位置が判明したんだと。
んで、そいつを捕らえて情報を掴み、ついでに魔王を倒すたびに出
てこいつてさ。

・・・急すぎんだろう！..

おかしいよー？って言つたら、

「諸君等の戦績は聞いておる。もう十分なのでは？」

つとHさんが言つたからである。

んで、明後日出発らしい・・・。

早ーー？？つて思つた君、それが正しい反応だから安心して。

こいつ等が異常なだけだから・・・。

つ~わけで、今夜も勇者からの嫌がらせ(へ)を受けつつ部屋を田
指し、泥のよう寝ることを決意する。

あいつ、時間があれば俺になんかしていく。

んでもつて、女性からの言葉の暴力・・・。

このままじゃあ死んじゃうよー！

・・・まあ、コウキチに回復魔法をかけてもらえば全回復なんだ
けどね！

さあ！みんなのお待ちかね、出発の時間ですー！

俺にとつては拷問以外の何者でもない時間です（血涙）！..平穏が
ほしい！..

荷物は刀、食料、水・・・位しかない・・・。

ん？馬車がある！いかにも勇者らしく！

つてあれえ！？あの馬ゼル伝のエナジヤないか！？
おおおおおーーーー！テンション上がってきたあーーー！

「すいませー！馬に乗る者が急に休んでしまって、現在代わりを……

「なら、俺の付き人に任せよ。」では

ほん

ん？何言つてんの！いつ……。んでもってなぜ俺の肩に手を置いてたんだ？

「頼んだよ？」

「はあ？何で俺何だよ？」「うつと早くしなさいよ……使えないわね

！……はい……。」

はい、テンションが25・600下がった……。

まあ？エポに乗るんだから？別にいいんだけどね……。

勇者はサササッと馬車に入りこちつきやがった……。

リア充爆発しろ！！！！！！

……。何だかんだ言つてこの街を出て、新たな町に行くんだった
な……。

何かくるものが……無いな。アレ？ナンデ？

思い出せばしき使われた日々、訓練の為に、生きる為に頑張ったこと……。

いい思い出が……ない……！

勇者はいちつきぱんく色の生活を、コウキチはこちつきまして
ないが両手に花……。

そして俺はおっさんたち……。

「理不眞だああああああああああ

20話に続く――――――

さらば！―嫌な思い出だらけの街よ！な十九話（後書き）

チアキ やつと街いや、城から出られたか・・・。

リクオ ・・・なんか、ごめんな・・・。

チアキ いや、いいぜ？小説なんだから・・・。

リクオ ・・・そういえば、ユキチの姿が見えないんだが・・・？

作者 それについては次回のここに、新たにゲストさんが来るから

迎えに行つて貰 つてるんだ。

リクオ へえ・・・また新しい人が来るのか・・・。

チアキ どんな人が来るのかな？

作者 まあ、気長にまとうや！

つゝ訳で次回をお楽しみに！！

リクオ お楽しみに！！

チアキ . . . あれ?なんかまともに終わった気がする . . . !

新たな町！－今日「ひ」やまグッスリ寝たい・・・。な二十話（前書き）

遅れました！－すいません！

新たな町！－今日ひやはグッスリ寝たい・・・。な一十話

「んにちは皆さん、千秋です。

俺はいい天気のもと、伝説の馬、ポナに乗つて馬車を引いてる最中だ。

ああ、憎い。こんなにも俺のテンショング下がつてんのに、勇者は昼間に気にせずいちやいちや。

ユウキチは気遣つてくれてるけど、両手に花。んで、女性からの言葉の核兵器・・・。

そんな俺の精神を削るよつた毎日なのに太陽はちゃんと俺を照らす。

そんな太陽に俺は睨み付ける。・・・はあ・・・。
ん？あれは？町？町なのか！？やつた・・・！

「町だああああああ・・・・・！」

ああ、叫べなくなるほどしほんだか・・・。だが、今日は一人でゆっくり出来そうだ・・・！

だつてほら、町なんだぜ？宿屋はあるだりつーこれで勇者とおさらばできる！？

もつあんな夜は嫌だからな！？

で、馬車を置かせてもらつたのだが、お金を出すのがめんどい。（

小銭だけ）

そのときに必要以上に俺に見せつけながらその親父さんに一万円を渡し、

「釣りはこらないぜ？」

つてかっこつけてる馬鹿が居る。俺にはまだ金あるけれどあまり見せたくは無い……。

んで、フフンって笑ってる」の勇者（暴）にどうこう反応をしたらいいのだろう……。

いつもなら心の中で「馬鹿だこいつ（笑）」って言つてたけどもつ気分が何もかも消費したからな……。

「なあ、勇者。」

「勇者様だ。」

・・・・・・・・

「勇者・・様・・・、俺らは別々んところで泊まひつけ?」

「ああ、そうするつもりだ。貴様は黙れ」

・・・・・・・・

決めた。いつか殺す!と。

そのあと、俺は宿を探した。どれもこれも高級高級……。
確かに王国の近くの町だからってこれは無いだろ……。テンショ
ンだだ下り……。

とそこでふと見つけてしまった!いかにも安そうなお店を!
そしてその宿の一室を借りた。ああ、今夜はいい夢が見れそうだ……
・はあ~・・・・!

「俺も彼女、ほしいな~・・・。」

哀れな主人公千秋は、こつして今日一日を終えた。のだが、

あの神は「少し面白みが無いな～・・・えい」なんて言いながら

少しやちゃつたのだ！

千秋はそれをまだ知らない・・・。

21話に続く！――

新たな町！－今日こそはグッスリ寝たい・・・。な二十話（後書き）

ユキチ 今回のゲストは咲十君です！

サキ上 初めまして!! サキ ああああああああああ!!

リケオ うお！？何だ！

さういふに似たる言ひ方か。
ていうか、なんだここのラストは！俺に行

サキト　・・・なんで軽く無視するんですか・・・。

して飲もうよ～！

作者いや、のめれねーだろ。年齢的に。

あがああああああああああ！ グキリッ！

ユキチ じゃあ、みんなで飲もう！！

卷之三

サキト チアキさん、いつもこんな感じなんですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2598o/>

～あっぱれ、俺の異世界譚～

2011年4月3日20時11分発行